

# 群馬県国際理解教育研究会

だより

群馬県国際理解教育研究会

発行責任者 会長 天川 博

## 第2回在外教育施設シニア派遣教員セミナー(11/26)

群馬県生涯学習センター4F第1研修室B

司会進行 小西啓吾事業部長



【天川会長のあいさつ】

### 1 天川会長あいさつ

本日は、2学期の末のお忙しい中多くの先生方に第2回シニア派遣教員セミナーにご出席いただき誠にありがとうございます。

さて、現在群馬県からのシニア派遣者は3名で、本日お話をいただく市川貞男先生も経験者のお一人です。先生は、USAサンフランシスコ補習授業校長として、3年間補習学校に勤務され、今年の3月末に帰国されたばかりです。市川先生のように、派遣教員を経験され、校長先生として派遣を希望される場合、「校長」「教頭」「教諭」のどれでも希望できます。しかし、ご経験のない方は管理職であっても「教諭」のみになります。このようなことも含め、市川先生から詳しいお話をうかがえると思います。

### 【現在シニア派遣者】

|        |                                   |             |
|--------|-----------------------------------|-------------|
| 糸井 博先生 | (シンガポール・クレメンティ日本人学校・教諭、元シカゴ日本人学校) | H29.3 帰国予定) |
| 林 悦子先生 | (マレーシア・クアラルンプール日本人学校・教諭、派遣経験なし)   | H29.3 帰国予定) |
| 真下 聖先生 | (マレーシア・クアラルンプール日本人学校・教諭、派遣経験なし)   | H31.3 帰国予定) |



### 平成25年度派遣(25～27年度) サン・フランシスコ補習授業校

#### 1. シニア派遣制度 希望から派遣まで

##### 1. 制度の概要

「平成19(2007)年度にシニア派遣制度が設立」

(1)発足の経緯 文部科学省事業評価書(平成19年度新規・拡充事業等)より

##### ①事業名 派遣教員シニアボランティア

##### ②事業の概要

・海外子女教育の充実に資するため、在外教育施設の派遣教員経験を有し、ボランティア精神に富んだ経験豊富な退職教員を、児童生徒数が50名以上の補習授業校に管理職として派遣する。このことにより、補習授業校の指導内容の充実及び管理運営体制の強化を図る。

### 【市川貞男前校長による講義】

#### ③ 得ようとする効果

・現在教員を派遣している全ての補習授業校において、基幹教員を将来的にシニアボランティアとする。併せて、児童生徒数が50以上の補習授業校の管理職として、シニアボランティアを派遣することにより、補習授業校の指導内容の充実及び管理運営体制が強化される。

#### ○目標値：

・対象とする補習授業校の基幹教員を、将来的に100%シニアボランティアとする。

対象校：児童生徒数50以上の補習授業校数 75校

#### ④効率性と想定できる代替手段との比較考量

・本事業は、従来から実施している在外教育施設派遣教員制度に沿った新たな事業として国が行うこととする。

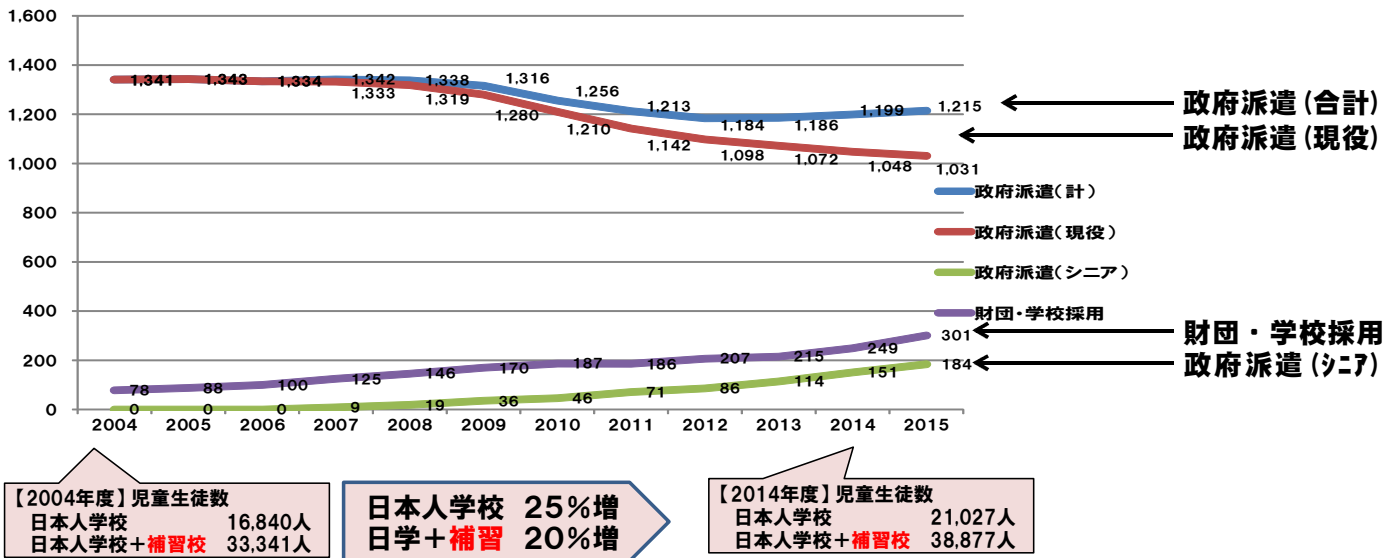
・投入される資源量としては、本事業がボランティアとしての性格に鑑み国内給与を支給しないため、従来の派遣教員を活用した場合に比べて1人当たり約700万円程度の削減が見込まれる。

以上のことから、本事業の実施により、様々な点で効率的に効果が得られるものと判断する。

#### ⑤シニアボランティアの派遣先を補習授業校のみとする理由

・日本人学校は小・中併設の全日制であり、派遣教員定数にあっては、国内標準定数の約8割であるため、派遣教員にかかる業務の比重が国内よりも格段に多い。その上、免許外指導や複式学級を受け持つことがあり、退職教員がフルタイムで勤務することは体的に困難であるため、対象としない。

### (2) 政府派遣教員／財団が雇用支援した学校採用教員数の推移

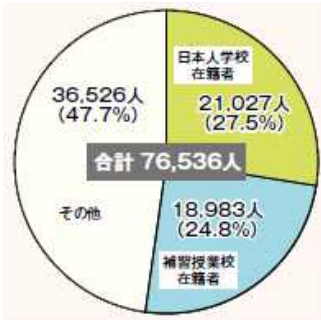


## 2. 希望から派遣まで (別添資料参照)

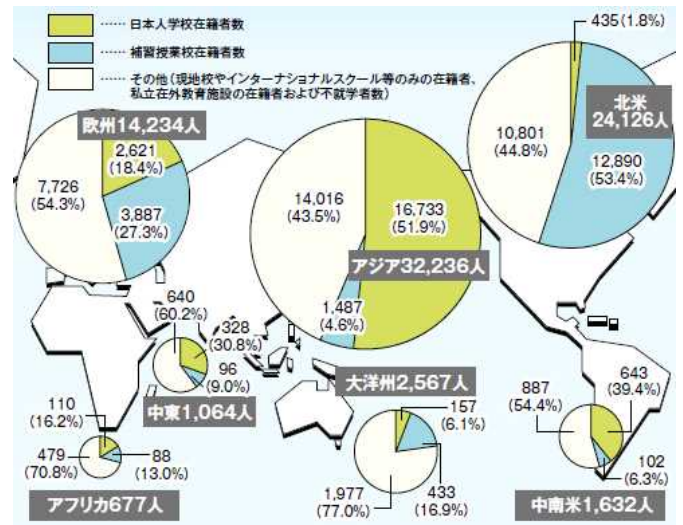
H29・H30 年度在外教育施設シニア派遣教員募集要項 (文部科学省ホームページ CLARINET ※へようこそ)

## II. 在外教育施設の現状(1)

### ●地域別×就学形態別の海外子女数(小・中学生)



アジアに暮らす  
海外子女数は  
全体の42%を占め、  
北米は32%、  
欧州は19%、  
この3地域で92%を  
占める



## II. 在外教育施設の現状(2)

### 日本人学校

- 児童生徒数の減少による収入減
- 所在国での学校ステータス問題の顕在化、現地政府による徴税問題

- 現地採用教員の確保
- 安全対策の費用増
- 校舎の老朽化・建替え、土地の借用期限到来、移転問題
- 派遣教員の減⇒学校採用教員の増員による費用負担増
- 児童生徒の多様化(永住、国際結婚、特別支援等)への対応による費用増

### 補習授業校

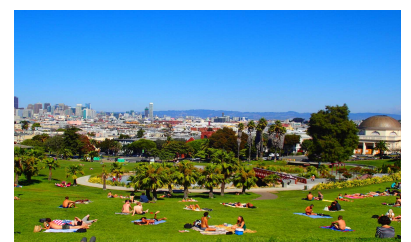
- 教員確保
- 校舎確保
- 永住者・国際結婚子女の増加とその対応(多い学校では8~9割を占める)
- グローバル人材を育成するための方策。補習授業校にできることとは?など

## III. 求められる教員像

- 健康 ○ボランティア精神 ○ポジティブな発想
- スキルなど・専門性・PC、IT・資格(自動車運転免許) 特技、趣味

## IV. 現地での生活の心得

- (1) 危機管理と保険(海外旅行保険への加入)
- (2) 現地習慣の理解や言語の習得
- (3) 派遣教員同士や現地採用教員との関係
- (4) 保護者や日本人社会との関係
- (5) 運営委員会や事務局との関係
- (6) 配偶者・同伴家族への配慮
- (7) 日本の親族などの支援



ミッション・ヒルズパーク(サンフランシスコ市内)